

Paralympics and Coexistence Society

「パラリンピックと共生社会：
傷痍軍人のリハビリから
多様性の祭典へ」

講師 **金山千広**
(立命館大学産業社会学部教授)

1/10 (FRI) 15:00-16:30

国際平和ミュージアム 2 階 セミナー室 1

パラリンピックは、第2次世界大戦で脊椎損傷を負った傷痍軍人のリハビリとして、イギリスのストークマンデビル病院で開催されたアーチェリー大会を起源とする。その後、車いす利用者の国際大会へと発展し、オリンピックとの同時開催を通じて包摂的な体制を構築してきた。2023～2026年のビジョンでは、パラスポーツを通じた共生社会の実現を掲げている。日本では夏季2回、冬季1回のパラリンピックの開催が、障害者スポーツの発展を牽引してきた。今回はパラリンピックを題材に、80年近く平和が続く日本での障害者スポーツの展開を振り返ってみたい。



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

主催：平和教育研究センター研究プロジェクト「スポーツと平和創造」
連絡先：udonchikuwainstitute@gmail.com (代表：市井吉興)